

## ●参加者の感想

◆AI と言えば映画にあるような人型ロボットと TV で目にするアシモ、ペッパーを重ね合わせてしまうのですぐにも実現しそうなイメージを持ってしまいます。

現実には災害対策ロボットのように非常に動きが遅いのでそのギャップがあまりにも大きいことに驚いてしまいました。ここからが科学・技術の発展ですね。

我々にはまだまだ活躍する場が残っています。半導体技術もますます進化します。

質疑応答もたくさんあって、妙に考えさせられてしまうこともあり、面白い発見でした。

おまけ

先日インターネット上に面白い記事がありました。

「人工知能マシン、プログラマーに怒る」で検索すると出て来ます。

そのうちパソコンからも怒られることになりそうですね。

◆数日前に、松尾豊さんの『人工知能は人間を越えるか』と、小林さんご本人の『AI の衝撃 人工知能は人類の敵か』を Kindle 版で買い、前者に目を通して後者に入ったところで当日を迎えました。

講師への質問と回答は、

Q) 人工知能はパーソナルになるか？

A) なるだろう

Q) 人工知能はプログラムの一種だが、自分のプログラムをベースに、改良版をプログラミングできる（バグ取りを含めて）プログラムは存在するか？

A) あるレベルには到達している

講演を聞いていて感じたことは、

(1) これまで顧客と言えば人間であったが、人間とパーソナル化した人工知能の融合が進めば、実質的には人工知能が顧客であるようなケースが増えるのでは？ 例えば、マイ人工知能のバージョンアップやアクセス可能なデータベース数が自分（+人工知能）のパフォーマンスを大きく左右する因子になれば、そのために「も」稼ぐ、とか（性能向上をねだる人工知能…）。

(2) 科学技術は、(a) 個人の好奇心をベースに、(b) 市場や軍事上の需要を満たすように進展してきたが、一億ドルを抛出できるスーパーリッチが世界中で数百人？も存在するようになって、世界は変わりやすくなったのでは？

(3) ディープラーニングによって、莫大な試行錯誤入りデータ（今風に言えばビッグデータ）から特徴量（目の付け所）を抽出出来るようになった（という理解）。人間とは処理量もセンサーも違うから、より目的に合った目の付け所を見つける可能性は小さくない。

一方で、何が目的か、何を持って目的に合ったと評価するか、というところはまだ人間が入力しているようだが、評価基準の設定も試行錯誤出来るようになるかどうか、そして更に目的自体をも試行錯誤出来るようになるか、はどうなのだろう？

どうやら 10 年後ぐらいには日常生活が大きく変わっているかも、という印象を受けました。不安よりは楽しみな感じが強いです。

「3度目のがっかり」になる可能性もあるのですが、それならきっと4度目のウェーブが来ると思います。

また、今回の講演タイトルにも含まれている私の関心事、即ちディストピアが出現するかどうかに関しては、ディストピアの需要総量が多いとは思えないことと、そしてAIがパーソナル化するなら回避されるだろう、と楽観視しています。

貴重な機会を戴き、ありがとうございました。